



Title	社会誌学
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1963
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/77294">http://hdl.handle.net/2115/77294</a>
Type	manuscript
File Information	K027_0138.pdf



[Instructions for use](#)

Standard Note

MADE OF FINEST PAPER  
PREPARED IN TOKYO

27

社会学部

社会学部

昭和三十一年度

ESD  
WA  
30



国策パルプ専工場特産紙使用

ESD - NOTE

(1) (2)

都市の配置、口境線、集積地帯の短縮  
口境線の配置の交通  
交流の激化の激甚他は広さと早さの  
為。電通とガソリンの文化  
巨大都市圏

自働車道路、カチオテレビ

世界と日本の成長の史と自ら自身の成長史  
今は激変の時期（社会、家族、交通、土木、生活用具）

社会法、その内容と命令の構成、都市を中心  
都市が社会的交流の源泉、統治の中心

交流の中心、経済（量）は、政治（力）は

「社会法」の意義

社会法とは、  
村家の口民の生活の内に見られる家族、村落

都市及び口民社会の基本的構造と機能

の二組を目的とするものである。

社会法

その年々によつて

一 社会法は、この家族、村落、都市及び

口民社会と云ふ四つの社会的要素の何れかに

（去年は家族を中心として行つた）

重点をおいて行つて来た。今年には主として

都市に重点をおいて口民生活の

全般にわたつての理解を深めようとする。

これはこの二五年來日本の口民生活は

かつてない強い変革の過程のたぐひの中に

この大なる社会的改革を社会主義的に観察し  
て見たら、

あり、都市は此改革の最も重要な足

場をなしているからである。然し此改革は

都市も村落も家族も口は移すも一休とな

つて行われようとするので、左の如きものは強く

拍をい同率し合つていよ。口は移すための社会的

交流は、<sup>日と共に熟しさを加え</sup>何れの一つの孤立をゆよさ程な

都市はその成立の基礎に社会的交流現象

をたき入れよう。都市は社会的交流の

結晶点と云われるにその特性をもつ

集積点と云われるか、それとも今日

の新しい社会生活の交差過程が都市を足場

にするよりかは、むしろ都市を

組織的に視察する。すかばあで、その  
に今日秋葉の視察にあつた。秋葉は、  
ものを一度正確に足し合わせる。

「今日の秋葉は、秋葉の視察」

### 秋葉

秋葉は既に秋葉化を遂げた。秋葉はもう若。

秋葉は、秋葉の秋葉化。口紅、女のパーマ

食—この二五年、秋葉を食す。秋葉は俄に秋葉。

丸。タクアン(北海道)。ハン食。ビールを飲む。

係—隣子強は、<sup>空気</sup>完全暖房。色彩。

映画—相対画。風景

音楽—

貿易の自由化

舞踊

自働車の激増、道路の改善、大土木工事、

交通の急激な発達、<sup>道代</sup>舗装道路、<sup>日民</sup>重洗車、

都市人口の増加、<sup>人</sup>農村の激減、<sup>工業化</sup>急激な工業化、

家族制の瓦解、<sup>市村合併</sup>町村合併、<sup>兼村</sup>近海漁業の

多移の合理化

医薬の発達、<sup>人</sup>科学工業や兵器の発達、<sup>人口</sup>人口

増、<sup>電子工学</sup>電子工学の

動力機械化産業、<sup>人口</sup>農村より工業人口

急変する日本

各種道路の延長、近年の増加  
自動車、電車の増加、汽車の回数を増やす  
電線の増設、電話の普及、郵便物の増加  
工場従業員数、増加

耕地整理、教育制度、家族制度  
二十五年より消費税率  
町村合併、新市、國語行政  
機械化の急増、住居の近代化  
車由貿易、(消費税率)に移行  
の自由化、温存経済より

の短縮

① 家族、近海漁業、町村合併、大都市圏、交通路線

第一、家族の変移

直系家族より夫婦家族へ

右の時の構造と関係構造

人見親、北小親の大改革

右の意向の存続となつてゐる

(1) 法令(出生率)生活の変化 (3)

教育制度

和の場合の故郷、大十代のものにはすくとも故郷の記憶が

あつた、その子供には兄弟毎に故郷は

異つてゐる。

流局の備懸いおけよ父母への期待

は異つてゐる、過渡的段階である。



父母の家庭が恐らく我輩中頃に恐らく  
分家した家であったものか、代を重ね  
た本家であったか、よって父母に、この  
政辭の仕方、甚だ異つていふところ  
父母と同居又は扶養の義務は、ついで  
の所行を知らぬいふところあり

今都市を以ては、東郷や、おほく東郷を  
おぼす、<sup>大きな</sup>都市を中心とする。新しき  
世に、生業を以て關係が、生業は  
職場中、一と、かり三代以上の家柄、  
或は、<sup>居</sup>る、<sup>上</sup>不可視のありつゝ、ある。

都市周辺のアパートが、近代家柄を  
象徴して、いふ、生業生活は、職場の、

大丈夫がその依存し消費を止はせ  
て、今現化された明朗な個人主義  
的・自由主義的現在本位で、現在  
と我を特特とす。子を去れ、夫と  
す。子供のために我と我を特特  
ルして名譽と富を家風に言及する  
ものに生かす。甲斐もよろこび感じて  
生きて来た。直系宗族の制は  
今私達の現<sup>前</sup>に消えさりつゝあ  
る。この消え去り方に最近のはげしい  
工業化は拍車をかけている。

である。

大都市の近代産業が、口内各地方の

中や都市の下請工場の生産活動をもせきたして、

そのために農村の古い宗の古風力も、

も打ち去るに立場に付とめよに至る

場合は指し甚だ多量にありあろう。

口をあけこの最近の列し、世よりの

変物は都市も打壊し由家族

を一帯とたよ連鎖を産むの激

流の中にあやう行はれよう。

新しい大婦宗族型か他人を教

自由主義合魂を其を調をす。

文化の発展史における一つの大きな

成長であり、<sup>（さげかゝる大い）</sup> 是れであることは間違

ちない。

（宗務生活における）

（中絶）が、<sup>（我が国では）</sup> 工業の発展への

踏的变化の中に進行している事は

注目の價である。

夫婦関係の移り変り、<sup>（同様に）</sup>

なり得る世代的組織である。

平均年齢の上昇による、<sup>（孤獨な）</sup>

六十才の老夫婦は、<sup>（社会的）</sup>

その生活の足らぬは、<sup>（社会的）</sup>

を必要とするが、<sup>（社会的）</sup>

老後のための準備を、<sup>（社会的）</sup>

の世間的な経験を活用する。操縦がわが  
たりよるは同じである。人生の終末と死

節期期にあつた父母と孫輩との間の

愛階の接續には非合理的な一頁の交

儀やこゝろマニエの遺席が連続される。

生世の世号はいつの世も合理的の母とめく

世号である。この世号に入る子のの幻思を

とこの世号から出て来る祖父母とは合理

を忘れる世号に遊んでいゝと云ふ。

先知の夫婦宗族の次に用意される。

宗族型は今中共に思ふ。

宗族型である。そこでは子は中位

から公設の教育機関による管理をせ  
親の膝下を去る。才能を磨きしめる  
をりけ職場に入る。親の元にはついで  
らなつて、結婚して新しい家族を  
築く。かくてこの家族型では  
家族は夫婦と小学校のほまの子  
を育てる。夫婦家族は生業につくま  
ての子育てを、夫婦による構成す  
る。中身時代と就職するまを育て  
か、子供を育てるかの別がある。あ  
中には、中途退学を運んできて、  
今更におもい通り、子供は、  
日本の管理に入り、共同の設備を

この教育は<sup>され</sup>生業を<sup>についで</sup>授けようとする  
すなわち口実の管理に入り、家族とは  
夫婦のみの結合以外のものを<sup>はたか</sup>たか  
たのむな。

村落的なわけー気受

次々に発展する場としての都市  
市民生活

1. 町村合併 → 移市

2. 立のオ、浦渡村

（電通団地）

3. 男校の片あきった村

4. 機械化した村  
生活の合理化



豊後村を九又な成りて一人の地手

全口のとこの一戸も町に結んで地方都市に結んでいき皆都  
に結いつてき全口あけて一大都市を形成する方向  
への第一歩が町村合併 地方の発展に必要にしては  
た、おおこしと明しい文化の世が、いよいよ第一の  
試み。文明の意味、政治の進む味かそれ分よ。

三つの社会地色

第一社会地色ー身延村、御落、旧村

氏神、御落共有林、村入、標

入、氏子入り、水も急流の

相互拘束関係

虫村自力更生、御落層、農業共同組合

(2)

町村合併

昭和二十八年七月六日余田あつた村が昭  
和三十三年に十百足らう人になつたのは約  
七ヶ村が合併して一ヶ村になつたを  
意味する。

町村合併がアメリカの官吏連の忠

言にもとを説いたより日本官の良徳の

作中中央集権的方針の一歩の

道として行はれたるはたしかである

か、生活圏の拡大に意をなすは、  
又、生活圏の組織の拡大化の  
世界文化の

進行にあつたといふことは、  
大勢の一コマとして  
見らる。

町村合併が結果にあつた人な

の文化を急激に高めつたにたつた

年報にも政治的に保た  
したのだと

※世界は戦争をふこくを亡ぼした  
軍の政權にいつても併せ考へよ。

生活水準を高めようとした

しかかあるか、その中か可能になったの

土木工学的技術の普及し、環境が

大勢に交通路が急速に建設され

平均したからである。凡そ政治と云ふ

国民の幸福と云ふ事については

根本的に考へる一つの要素である。\*

所が今併によつて村人の生活が

交通路が山道に代つて、

車が従来し共の建物や多くの

可貴なものを失ふか、林やたんばに

なつてゐるところ、  
にわたり流す高層の

手紙に

林業や農林業に機械を自由に手か  
よに取り入れの好んかりといれ執任の  
効率をい能率をいおめたかたるう  
バスや自動車を用いし余力を活用し  
町の工場や作業場に出し収入を  
あげようといお来る好んた

四角よりみお来る好んた  
も山道を造つて道ついでたや学校の  
児童の通学も学校にスガ自他  
の附近まで通えに果し好んた  
も山多しである  
道路建設や住宅建築に同する  
すはしい村街があつてこそそのよ  
は可能であるのである。  
アメリカの行政  
アメリカの行政はそんな結果を  
ついでありか、村の人には向満、日本の  
増進者達もそんな結果を  
あつた。故に合併はあつた。合併は  
と水難しい満多をいけはか分とぬ。

アムラの指導者<sup>若</sup>は五人な結果を見越して

と、南野村合併を早い財力を集め合現

的に交通路を

(連立に機械化を促める中により)

可満足りある便利<sup>モ色々の合衆化を促す</sup>な生活が実現さ

る相違ないと思つたのである。然し

町村合併は何れのとつても同様に

解決さす方、おとに二つといつてよいと

もあふ。村と村との感情的な不物や

利害の一致が互すよりこちらは当然であ

つ、<sup>機械化</sup>あるから協力は容易なものであ

るから<sup>機械化</sup>村と村の運回がこれ程美し

しくなつて思つてゐる。町村合併<sup>が</sup>研究

ろした今をたつて見れば村の人は皆よりこん

ていよのかれ知れぬ。生活の合理化の大ききなら

今世界中の弱小民族は大日の指導す

後仰の下に口土用器に従うしよ。

大日の穿る基地又は有物な指導の場

しては牙大日か物用する。ゆい指導後仰

方、う、あかば、民族指導者。中西あま

明治の新政府かあまはかりの原から

二十五年に地方制度が破さされた頃まで

旧昔時代の村の命令が盛んに解は

れるかあつた。その時中にあまは村は

旧村のセツ位か我行政村の一々指導す。

その時には姉妹として役場へ子供を連れて

し、行く財力が主として向かへていへん。今

の合併は江戸時代の村の約五十か

の町村になったのであつた。大抵は旧郡の地

であつた。明治時代のなか

かつて行政村の統一の為に旧村を合併

して郡が橋樑的の役割をなした

郡町村は旧行政村をそれぞれに

くであつた。その事は金の民の

劃一的統一も統治の力に有利である

が。然しそれより大御土の地位が

の民一人くの行政も統治の中

氏神と郡村有林

て行く事がある。統治政策の合理化  
の為の事である。

此レ一人くの内民が我等が作つてゐる鏡  
何事も有り  
切つては

政治組織の統治活動と云ふ感じのもの

はなすなり、自分へ対しては大きき道  
自分には

つこい御朱の活動と云ふ感じのもの  
巨大な威力の

となつてゐる。

前者は感情と義理人情と私利子分の

同好の縁縁と卑屈とにたつたか、たつた

合衆と唯我の民主主義とにたつたか、  
世界文化

いふ。今の日本には矢張りたつたか

つたかは定かである。民主主義の解決

オオキキは是れ必要である。

行政的措置としてこの町村合併自体にも深い同心を感かしてゐるは当然である。町村合併を契機として勃發した日本農村の生活革命ともいふ可い大文化に注意してゐるのである。

恐らく古代から彌生<sup>余り</sup>工夫が加へられたるその社会儀や生業や寒暖に對する我々の文化の入り入れが<sup>おん</sup>の<sup>カレ</sup>の<sup>レ</sup>儀が<sup>深</sup>に<sup>知</sup>られはじめたこと<sup>は</sup>、

それは町村合併には直接関係は



昭示の附帯してゐる昭示  
である。

の昭示と云へよ。昭示の場合は  
甚だ多かつた。

町工場に出る中民は、はじめの昭示  
を多程に付した。大したことがな  
かつた。それは道路が出来る、か  
つた。昭示は町工場合併によつて  
達成された。

町工場合併は行政組織における大規模化  
合同

による合併化であるが、その他産業や

文化の各方面における活動の大規模化に  
合同

より強化が図られる。昭示の行はれた。

大規模化による合併化の促進は、昭示活  
合同

動の各方面に波及した。昭示の行はれた。

現日本の財界は幾つか、その外に  
と、大げな小財界を包摂しようか  
今はこの時代のともなひ。

活動のあけは大地構化は企業体の  
合同統一の形となる。孤立各線あり。  
このは弱体化し又はせいの傾向を帯  
ていよ。

村の中<sup>に</sup>封じこめられた生活形式が、世界  
に広がる文化世界成長の序列に加わり、  
村の中の<sup>で</sup>経済世界は活動してあつたか、世  
界の市場に広がると生産に考がき、  
機軸をふいた<sup>うねり</sup>は機軸の「つと」は村  
合併を<sup>めざ</sup>る<sup>か</sup>か。農業  
口から工業口への急速な変遷の「つと」の  
形式である。町村合併はその一場面である。

③ 都市と都市の配

④ はるの都

九種の機関

- 1. 教育機関
- 2. 技術機関
- 3. 交通
- 4. 通信
- 5. 行政
- 6. 治安
- 7. 警察
- 8. 信仰
- 9. 娯楽

③ 国民生活における社会的交流と首都

都市と機関

都市の配列——機関の配列と機能  
 機関の上下と都市の上下

交流の多寡——上下的接触、交流  
 (同位交流の拒否)

日本の場合は都市は首都より

始まったが、この間下し、外子でないか。

口増強を限界とする、地方的交流

完結的現象としての国民生活。

交流の終結点、娯楽場としての首都

新文化の製造工場としての首都

今口では中央の大規模の方式が直

下にはおぼろしく。今中央の機関

末端が、

地味な東京の強可

★行首都に集まる政治力の大き系統  
集の経済財力の大き系統集の協  
を行活動は多人の境を狭くが  
如く、障りなれ。この。散見地造  
制を、事なと、その一例である。

世界市場を  
拡大し

は貿易の自由化を、のめり、烈しく踏  
進して、より、口民の末端まで、その  
余波が及ぶ、といふ。町村合併を、  
により、口民は、愈々、中央の産業機  
関の生産活動にも、消費活動にも  
参加し、交流は、益々、盛んになり、つ、ま、  
首都と地方との間の所得や消費  
の格差が、過大である、のは、口民生活  
の安定を、い、か、た、い、  
★

一方に自由平等、人権尊重が、制、度、代  
さ、れ、つ、い、半、面、に、二、極、の、格、差、が、存、在、  
する、は、合、理、化、過、程、の、何、れ、の、方、面、に、抑

久くこの子のあしを搦る。今の如く  
しこの子のあしを搦る。今の如く  
事をもれやもつ。あしを搦る。  
的器用

④ 九月十七日

日本は農業と現時の變化の認識。  
北原君は現時を起点とするより  
今日村の現時は遊園地であらう